

【大竹市】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの表現～」において、ICT を利用して個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指すことが求められる。

「個別最適な学び」の実現のため、一人一人の児童生徒の実態に応じた学習計画に基づき、児童生徒が1人1台端末を通じて、場所や個人の資質、環境にとらわれず、個々の理解度や学習ペースに合わせた学びを目指す。

「協働的な学び」の実現のため、授業支援ソフトを活用し、他者との協働作業を通じて、必要な資質や能力を育むことができる学びを目指す。

大竹市では、大竹市教育施策大綱において、「笑顔・元気 かがやく大竹」の将来像を掲げており、「子どもの学びと成長を支える教育の充実」の施策を進めるため、ICT を活用した学校教育の充実を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に1人1台端末及び各学校のネットワーク環境整備を行い、令和3年度からICT支援員を配置し、教職員の負担軽減及び学習支援ソフトの活用による個別最適な学びの実現に努めた。また、Webフィルタリングソフトを導入し、学校での学習時や、1人1台端末の家庭への持ち帰り時におけるセキュリティの確保に努めた。自宅にネットワークが整備されていない児童生徒については、モバイルルーターの貸し出しを行った。

ICTの活用について、当初は各学校間で差が生じていたが、定期的にICT活用に係る研修を実施したことや、各学校においてICT活用指導力を有する教職員が牽引することにより、教職員の関心が高まり、ICTの積極的な活用や指導力が向上してきた。しかし、学校や教職員による学習用端末等の活用頻度には差があるため、教職員の意識やICT活用指導力のさらなる向上が求められる。引き続き研修の実施や授業実践例の提示により、教職員のICT活用指導力の平準化を図る。

また、学習用端末の性能による容量不足等による不具合が見受けられたほか、管内市町において少数派となる OS を採用したことによる教職員の人事異動に伴う負担が課題となっているため、更新端末は管内市町の多くで採用されている動作が軽い OS に変更する。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和2年度に整備した1人1台端末は、導入から4年が経過し、バッテリー消耗等の不具合が発生し、授業での活用に支障が出かねないため、令和7年度に端末の更新及び予備機の購入を行う。1人1台端末環境を引き続き維持し、児童生徒の学びをとめることなく学習できる環境の構築に努め、以下を踏まえた活用を推進する。

(1) 1人1台端末の積極的活用

授業等で、教職員が1人1台端末を活用する時間を指示するのではなく、児童生徒が自ら活用するタイミングを選び、積極的に課題解決に向けて学習に取り組む姿勢を育てる。また、ICT支援員の配置を継続し、教職員への定期的な研修や、効果的な活用について情報共有を行い、ICT活用スキルの向上を図る。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教職員とやり取りする場面」において、1人1台端末を積極的に活用できるような環境づくりを行う。

「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に児童生徒の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していく。

「協働的な学び」においては、個人の意見が集団の意見に埋もれてしまうことのないように、1人1台端末を活用し、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す授業を行う。

（３）学びの保障

１人１台端末を活用することにより、学びの幅を広げ、さまざまな状況の児童生徒に学習機会を確保していく。

不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒に対し、「リモート授業への参加」「課題等のオンライン送付」「外国人児童生徒に対する学習活動支援（翻訳機能等）」「障害のある児童生徒への支援」等、多様な場面での活用を検討する。